

新型コロナウイルス感染症

～これまでの評価と今後の展望～

参加費
無料

当日のスケジュール

- 13:00** 開会挨拶 松谷有希雄（一般財団法人 日本公衆衛生協会 理事長）
13:03 来賓挨拶 福島 靖正（厚生労働省 医務技監）

第1部：講演

- 13:10** 1. 基調講演（オンライン）
「ベトナムから見た日本のコロナ対策」 ※オンライン
演者：正林 督章（ベトナム保健省 政策アドバイザー）
座長：和田 耕治（一般財団法人 日本公衆衛生協会 理事）
- 13:40** 2. 特別講演
「新型コロナウイルス感染症における有識者会議の
評価と保健所に期待するもの（仮題）」
演者：永井 良三（自治医科大学 学長）
座長：宇田 英典（一般財団法人 日本公衆衛生協会 参与）

第2部：パネルディスカッション

- 14:10** 3. パネリスト講演
- 14:10** ①「今後の地域保健体制のあり方について（仮題）」
演者：佐々木孝治（厚生労働省健康局健康課 課長）
- 14:25** ②「沖縄県における新型コロナウイルス感染症対策のこれまでの経緯と今後の展望（仮題）」 ※オンライン
演者：高山 義浩（沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科 副部長）
- 14:40** ③「大阪府における新型コロナウイルス感染症対策と今後の展望（仮題）」
演者：永井 仁美（大阪府茨木保健所 所長）
- 14:55** ④「コロナ禍での公衆衛生活動を担ってきた保健師のこれまでとこれから（仮題）」
演者：松本 珠実（全国保健師長会 会長）
- 15:10** ⑤「地方衛生研究所の新たな役割（仮題）」
演者：吉村 和久（地方衛生研究所全国協議会 会長）
- 15:25** 休憩
- 15:40** 4. パネルディスカッション
座長：岡部 信彦（川崎市健康安全研究所 所長）
助言者：中澤よう子（全国衛生部長会 会長）
内田 勝彦（全国保健所長会 会長）
- 16:40** 5. 座長・助言者まとめ
- 17:00** 閉会挨拶 松谷有希雄（一般財団法人 日本公衆衛生協会 理事長）

開催
日時

2022年12月7日(水)
13:00~17:00

場所

全社協・灘尾ホール **ハイブリッド開催**
東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル LB 階 TEL. 03-3580-0988

申込
方法

当協会ホームページより出席者登録票をダウンロードの上、
メールにてお申込み下さい。 <http://www.jpha.or.jp>



新型コロナウイルス感染の状況等により、本シンポジウムは
オンライン開催になる可能性があることをご承知おください。

新型コロナウイルス感染症 ～これまでの評価と今後の展望～

開催趣旨

我が国で新型コロナウイルス感染症の国内発生が2020年1月16日に確認されて以来、早3度目の冬を迎え、未だ終息の兆しが見えない状況にあります。

コロナウイルスは、武漢で発生した従来型からまるで人々をあざ笑うかのように変異を繰り返し、新たな感染の波をもたらしています。

英国で確認されたアルファ株、インドで確認されたデルタ株と、より強い感染力を獲得した変異ウイルスが台頭し、第5波では、急激な感染者の増加により、多くの方が自宅療養を余儀なくされ、十分な医療を受けることなく亡くられる方も出るという、大正時代のスペイン風邪を彷彿とさせるような事態にも見舞われました。

特に、第6波では、多くが無症状ないしは軽症といわれるオミクロン株が出現し、年明けから急拡大し第5週目には第5波の約4倍（約60万人余）の感染者数が発生し、保健・医療体制が逼迫、さらに、第7波では、変異オミクロン株（BA5）が、爆発的に感染拡大し、日に300人以上の方が死亡するなど、今までの対応では対処できない事態をもたらしました。

本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症が発生して以来、公衆衛生に従事している方々にご参集いただき、毎年開催しておりますが、第1回目（令和2年12月16日開催）は、「新型コロナウイルス感染症～地域保健における取り組みと課題～」をテーマに関係者による効果的な取り組みに資することを願い、第2回目（令和3年12月14日開催）では、「新型コロナウイルス感染症～今後の発生時に備えた体制強化に向けて～」をテーマに一刻も早く収束させ、国民が普通の生活に戻れるよう、関係者が一致団結して取り組まれることを願い開催いたしました。

今回は、特別講演に政府の有識者会議の座長を務められた永井良三先生をお招きし、変異と再燃を繰り返す新型コロナウイルス感染症にどう対峙していくか、これまでの公衆衛生活動を再評価しつつ、今後の公衆衛生組織活動全般の方向性について議論を深めることを目的として開催することといたしました。

今回の新型コロナウイルスによるパンデミックは、人類の弱い側面を巧みに突き、また、短期間で変異し、再感染・再拡大を繰り返し、世界で600万人を超える方々が亡くなるという、現代社会における最も重大な公衆衛生上の危機をもたらした感染症です。決して油断することなく、関係者の方々が更に一致団結してこの難局に立ち向かうことを願い、本シンポジウムを開催する次第です。

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

令和4年秋

一般財団法人 日本公衆衛生協会
理事長 松谷 有希雄

日本公衆衛生協会概要

当協会は、明治16年に設立された大日本私立衛生会を前身として、長年、公衆衛生の向上に関する事業を行い、公衆衛生関係団体の活動を支援する組織として、日本の公衆衛生の発展に寄与して参りました。

かつて、大日本私立衛生会時代の大正7年から9年にかけて、スペイン風邪が世界的に大流行し、多数の国民が犠牲になっております。当時の記録によりますと、同会は「流行性感冒に対する家庭の心得」の啓発、感染予防に関する正しい知識の普及、政府に対する建議を行うなど様々な活動を展開しております。

現在、本会は、一般財団法人日本公衆衛生協会として、一般社団法人日本公衆衛生学会並びに全国衛生部長会や

全国保健所長会を初めとする公衆衛生関係団体の事務局を担っております。また、広島県、長崎県から委託を受けて在外被爆者に対する医療費等の助成事業を行うとともに、広く一般国民の皆様のための保健指導書、地域保健関係職種専門書及び機関誌「公衆衛生情報」の発行などを通して、国民の公衆衛生の向上に資する活動を行っております。

特に最近では、東日本大震災を契機に大規模災害発生時に迅速に現地の保健医療行政の指揮調整機能等を応援するため、厚生労働省と協同して災害時健康危機管理支援チーム（Disaster Health Emergency Assistance Team <DHEAT>）の養成も行っているところです。

開催日時

2022年12月7日 水 13:00-17:00

場所

全社協・灘尾ホール

東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル LB 階
TEL. 03-3580-0988

ハイブリッド開催



新型コロナウイルス感染防止対策として、会場の座席にゆとりをもたせ、120名様程度に限定とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。



ご来場いただけないお客様のために、日本公衆衛生協会ホームページ（<http://www.jpha.or.jp>）にて1月下旬から2週間、シンポジウムの動画を公開する予定です。